

市民参加実施記録

案 件	本庁舎整備に向けた基本的な考え方について
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	令和5年1月26日（木）18時30分から19時30分 だて歴史の杜カルチャーセンター
所管部課名	総務部総務課
<p>【概要】</p> <p><出席者> 市：伊達市長、総務部長、総務課長、総務課参事、総務係員 市民：18名</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 市長挨拶 なぜ今この話かという、老朽化した庁舎を整備するには多額の費用がかかるため、早くから準備を進めなければならないと考えている。 また、デジタル化が進み、オフィスがどんどん小さくなっていくのに加え、防災の問題もある。新たな課題に向き合う庁舎でなければならない一方で、財政の課題もあり、それらを乗り越えていく必要がある。皆さまから、さまざまなご意見をいただきたい。</p> <p>3. 説明 資料に沿って説明</p> <p>4. 質疑応答</p> <p>□市民：庁舎整備に関して視察を行っているようだが、国内・国外で使いやすい機能的な庁舎やモデルを参考にしたり、機能的な庁舎を作ったというアドバイザーや相談先を設ける考えはあるか。</p> <p>■市：道内では自治体DX[※]を積極的に取り入れた建物が少なかった印象であり、これからの庁舎はDXが重要な視点となることから十分に検討したい。</p> <p>■市：具体的に「改築か改修か」という問題を決めないと次に進まないと考えている。率直にどんな印象を受けるか。</p> <p>□市民：説明にあったように防災のことを考えると改築がよいと思う。改築するのであれば、建築費用を返済して行くのではなく、庁舎で稼げるような仕組みを考えてみては。</p> <p>■市：第2庁舎は、維持管理コストを考えると、機能を本庁舎に持ってきて廃止すべきかと考えている。また、改築した場合は、現庁舎を全部取り壊すのではなく、その一部を残して使用するという考え方もある。知恵を出しながら検討していきたい。</p>	

□市民：改築して将来に対応できる施設にするべきだと思う。1、2年の中で結論を出して進めてほしい。

■市：令和7年までに実施設計を行えば全体の2割程度の財政措置があるとみている。早急にとの意見だが、一方的な説明になってしまうといけないので、議論をしながら丁寧に進めていきたい。

□市民：改築してほしいが、場所はどうか。

■市：庁舎建設にはある程度の面積が必要になるが、市街地にはまとまった土地がないので移転は考えにくい。

□市民：行政のDX化が進むと、手続きがオンライン化となり、市役所に来る機会が減るという考えもわかるが、年配の方は直接話を聞いてほしいという話もある。

■市：庁舎に全ての機能を盛り込むというよりは、今後の社会情勢を考えると、庁舎はできるだけスリム化すべきと思う。一方で、コミュニティ対策を進める必要はある。

□市民：視察に伺った自治体で、どういうところでDXが足りないのか。

■市：道内では窓口に来ることをベースに議論がされているようであったが、道外では関西圏を中心に「窓口に来なくても良いような行政サービスの提供を行う」という考えも出てきている。

□市民：今後のおおまかなスケジュールは。

■市：令和5年中に改修または改築の方向性を出して、令和6年で細部を詰め、令和7年に実施設計という流れを想定しているが、慎重に議論していきたい。

□市民：今後、市民アンケートを取る予定はあるのか。

■市：アンケートを行うことよりも、丁寧な説明をし、対話をできるだけ重ねていくことを重視したい。

5. 閉会

※自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）：自治体が最新のデジタル技術を活用して、住民の利便性を向上させるとともに、業務の効率化を図り、行政サービスの更なる向上に繋げていくこと。